

例会報告

第2162回例会報告議事録
日時 22年8月3日(火曜日)
場所 ホテル マークワン 我孫子
時間 12:45点鐘
ロータリーソング「奉仕の理想」

ゲスト：
国際ロータリー2790地区ガバナー 織田吉郎様
10分区ガバナー補佐 飯合幸夫様
ガバナー補佐幹事 杉山 智様
米山奨学生 禹海蓮さん

会長挨拶

塩毛会長



本日は織田ガバナーにお越しいただき、卓話及びクラブ協議会を共有できる事を楽しみにしています。さて、8月に入りましたが、今月は『会員増強および拡大』月間です。

丸田広報委員長、米田担当はもちろんですが会員の皆様一人一人もそのことを心掛けて頂ければと思います。8月21日は地区クラブ奉仕委員会セミナーがございまして担当の方は出席をお願いいたします、8月24日の例会は地区職業奉仕研修委員をお招きし、初めてのクラブフォーラムを予定しております。

又、8月28日は米山記念奨学委員会セミナー、翌29日はWCS交流セミナーがございまして各担当の方には宜しくお願いいたします。

GAVERNOR'S MONTHLY LETTER 1 に決議23-34のことが載っていましたので少しお話いたします。去年12月に開催したCLP検討委員会でのこと、井上会員よりこの決議を我孫子RC細則に入れられないかとの発言がございました。その時は結果が出ずにそのまま今日に至っておりますが、その部分の文章を少し読ませていただきます。この決議についてビチャイ・ラタクルRIパスト会長は今年1月の理事会で決議23-34を歴史的文書としてしまうことは、ロータリアンの間にその声明の価値を失わせる可能性がある」と指摘しました。これを受けて理事会は歴史的文書とすることを止め、その声明を全文、章典に復活させることを推奨したのです。これによって今後のロータリー章典と手続要覧に再び掲載することが決まりました。さらにビチャイさんは今年6月の理事会で、今後決議23-34に対するいかなる見解も受諾しないよう決議することを求めるという徹底ぶりです。決議23-34は完全に息を吹き返しました。ロータリーの生命が繋がったのです。私は11月当地区の地区大会で基調講演をしてくださるビチャイさんに心からの感謝を込めて皆様と共に盛大にお迎えしたいと思っています。とあります。

皆様も良くご存知と思いますが決議23-34とは、1923年の第34号議案の事であり、日本では大正12年関東大震災の年になります。この年より日本のロータリークラブが増加したことを見ますと決議23-34と日本のロータリーとの深い関わりを感じます。又後日このことはお話したく思っていますが、今日はこれで会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

親睦活動委員会報告

松本親睦委員長



8月31日に夜間移動例会を行いますので後程、企画を連絡しますので奮ってご参加下さい。
8月誕生日のお祝いは3名いらっしゃいます。

上村晃一会員

「今年で72才になります。以前は誕生日ですと頂き物も有ったのですが最近お祝いをしてくれるのはロータリーだけとなってしまいました。お祝いありがとうございます。」



今月の誕生日祝 上村晃一会員



今月の誕生日祝 塩毛会長

出席報告

宮本出席委員長

出席率85.2%

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
織田ガバナー		10,000円
飯合ガバナー 補佐	織田年度よろしくお祈いします。	5,000円
杉山ガバナー 補佐幹事	今年一年よろしくお祈いします。	5,000円
塩毛会長	ガバナー公式訪問、誕生祝いありがとうございます。	3,000円
小池幹事	ガバナー公式訪問ありがとうございます。	3,000円
今井会員	7月23日長女の結婚式が無事すみました。 これでお爺ちゃんの資格が出来ました。	10,000円
上村会員	誕生祝いを頂いて	1,000円
志賀会員	施餓鬼会の大法要が無事に終わりました。	2,000円
		当日計 39,000円
		今期累計 86,000円

幹事報告

小池幹事



ガバナーエレクト山田修平様より活動計画送付の礼状が届いています。
浦安ベイロータリークラブより認証伝達式参加の礼状を頂きました。
8月のロータリーレートは、88円です。

禹海蓮さんへ米山奨学金授与



夏休みに中国へ帰ります。中国も酷暑で母が熱中症に掛かったと聞き心配しています。
現在は夏休み前で論文の仕上で大忙しです。
来月中国のお話が出来ればと思っております。



禹海蓮さんへ米山奨学金授与



経済先進国、とりわけわが国ロータリーの衰退は私達が今待ったなしの危機の真っ只中にあることを示しています。その原因は長引く不況の影響だけではとても説明がつくものではありません。私達は今ここにある危機にどう対処したらよいのでしょうか。

それにはまず、この危機の原因を多面的に分析し、その後自分達の力で改善できるものから着手してゆくことが必要となります。多少時間はかかるかもしれませんが、クラブ自身で分析を進めてゆくその過程こそが危機脱出への突破口になる筈です。

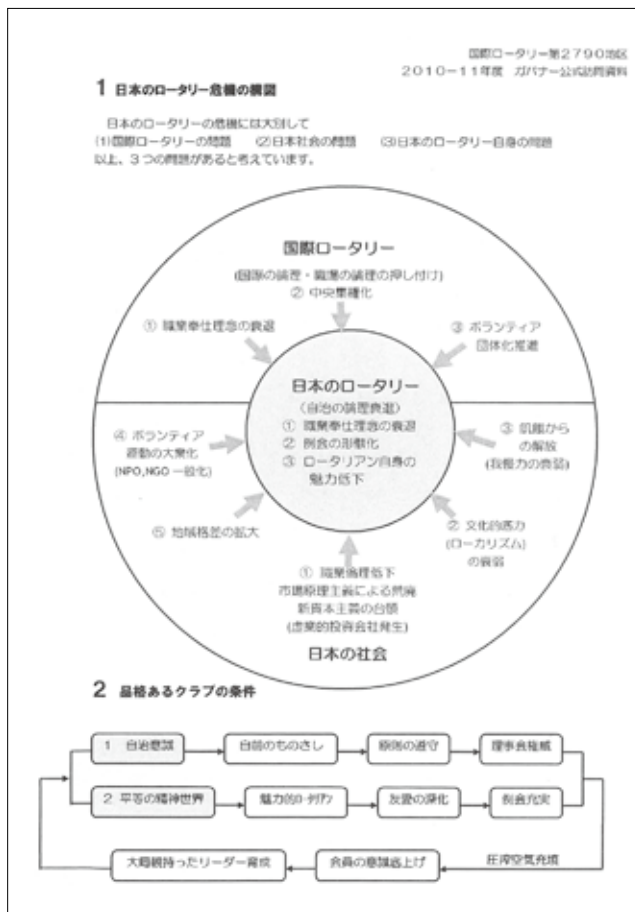
私の考える日本のロータリー危機の構図につきましては例会時にお話しましたので、紙面の関係でここではその中から「品格あるクラブの条件」として、クラブ運営の改善に役立てていただけるかもしれない2つの提案をします。

1つめは自治意識の高揚です。幕末開国時に日本を訪れたイギリス人が江戸市中で庶民が瓦版を立ち読みしているのを見て、日本を植民地化することをあきらめたといひます。200年以上にわたる鎖国で外国の文化と隔絶されていたにもかかわらず、世界一の識字率を誇っていた文化レベルの高さが日本を救ったのです。今私達は江戸人の持っていた文化（ローカリズム）の貯金を使い果たしてしまったのでしょうか。ひたすらグローバルイズムに流されて、今では本当の文化はどこか他所のところで作られるとすら思っています。自前の文化や伝統を軽視する姿勢はロータリーにおいても同じです。「自分のクラブは自分で守る」という自治意識を育まねばなりません。単にRIに追随するのではなく、自分達で自分達の基準（物差し）作りをする、そのためにロータリーの原則を今一度全員で学びなおしてみる、その過程で会員が育ち、理事会の権威が増してゆきます。

2つめはクラブに平等の精神世界を育むことです。

例会には、地位や権力や富等およそ世間で重んじられるものを脱ぎ去って純粹にただの人間になって参加することで、その場に均一的平等の精神世界をつくることができ互いが無一物同士となって磨きあうことができます。その時私達は皆対等で平等、そんな例会を通じて人柄を少しでも清らかで高雅なものにしてゆこう、そして日々研鑽した私達の精神世界を家庭や職場はもちろんのこと職業倫理を高めることによって、地域に影響を及ぼしてゆこう…それがロータリーです。高い平等の成熟度は魅力あるロータリアンを育みます。そして会員の友愛の深まりは結果として質の高い例会へと結実してゆくのです。

以上、2つの提案は、品格あるクラブ作りに役立つだけでなく、今ある日本ロータリーの危機を突破するきっかけ作りにもなるのではないかと考えています。



ロータリーの友 事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp
 メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村力コンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。